

Interview



JA全農ひろしま
羽賀博之さん

広島県全国和牛能力共進会対策協議会の事務局。審査員として広島県の代表牛の選抜にも係わり、全国大会へ向けて各農家を指導する。東城出身。

全国和牛能力共進会には、全国各地から選抜された和牛約500頭が出品されます。この大会は、各道府県の取り組みを発表できる唯一の場であり、これまで努力してきた改良を確認していく場です。

審査は大きく分けると「種牛の部」、「肉牛の部」があります。種牛の部は、月齢など、それぞれの目的によって9つの出品区（部門）に分かれて行われます。審査基準ですが、体積・均称、資質・品位、それぞれの部位など8項目で評価しますが、簡単にいうと体の大きさやライン、バランスの良さが求められます。出品区の中には、4頭または3頭セットの群出品があ

体の大きさ・ライン・バランスなどを審査 伝統とチームワークで全国へ挑む

り、それには個々の評価プロセス均一性や群としての特徴が重要な要素です。その時代・時代によって求められるものが若干異なります。かつては肉量重視の時代がありましたが、近年は「栄養度」といって、バランスの良さが重要視されています。なぜなら、毎年よりよい子牛を産む種牛能力を高く評価しますから、無駄な肉がついてなく、体がしまっていた方がよいからです。

「肉牛の部」は実際に肉にして審査を行います。日本格付協会の基準に基づいて、肉質、歩留まり、色で細かく評価され、A5等級BMS12というものが最高のランクになります。現在、全国で約50万頭の種牛がいるといわれていますが、そのうち広島県は約4〜5千頭です。全国の1%にも満たない頭数で、全国評価を獲得するには本当に厳しい戦いが予想されます。しかし、過去の先輩たちが広島牛を作り、日本一にも輝いた和牛改良の灯を消すことなく、次世代へバトンを渡していかなければいけません。伝統とパワーとチームワーク、経験を十分に生かして広島牛を全国へ発信していきたいと思



知名度こそ神戸牛、松阪牛などに劣るものの、肉質自体はそれらに勝るとも劣らない広島牛。単に広島牛だから広島牛というわけではありません。食肉市場などでは牛肉はサシの入り具合などで格付けされますが、枝肉を5段階で評価し4ランク以上のものが広島牛となります。県内で生産・肥育され、肉質が一定水準をクリアしてはじめて広島牛として認定されます。



※サシ(脂肪交雑) 筋肉内に沈着した脂肪のことで、皮下脂肪とは異なる。脂肪が網目状になって肉の全面に広がっている霜降り状が良いとされている。

肉質

全国和牛能力共進会の第4回(福島県)と第5回(島根県)では、比婆和牛育種組合出品の育種登録群が連続グランドチャンピオンに輝きました。その出品群の主体が口和地域の生産牛であったことから旧口和町は「日本一の和牛の里」という看板を掲げ、和牛の生産振興に熱心に取り組んできました。



連続日本一

和牛が歴史に現れたのは江戸時代後期で、中国山地の谷ごとに「羹」という名称で雌牛側の系統を縷々としてつないでています。広島県には、比婆とその他系(神石・双三・高田)の2つの系統が古くから有名で、現在はその2系統の交配、さらに他県の系統を導入して広島牛を造成しています。



歴史



特集

全国へ挑む 広島牛

広島牛の威信をかけ、
いざ勝負!

和牛最高峰の全国大会が10月11日~14日、鳥取県で開催されます。毎回、この大会に多くの優秀牛を出品し、上位入賞を果たしてきた庄原市。「広島牛を全国へ」と意気込む、和牛関係者の取り組みを追いました。



和牛日本一の称号をかけた熱い戦い
全国和牛能力共進会は、全国の優秀な和牛が5年に1度、一堂に会してその優秀を競う全国大会で、「和牛のオリンピック」とも称される大会です。
雄牛・雌牛の和牛改良の成果を競う「種牛の部」と肉質を競う「肉牛の部」があり、各道府県から選抜された和牛が、それぞれの部で頂点を目指します。審査結果が各道府県の和牛のブランド化に大きく影響するだけに、和牛関係者にとっては、まさに威信をかけた非常に重要な大会です。



2大会 連続出場を果たす

Interview



中丸かつ子さん (比和町)

前回の岐阜大会に続いて連続出場の中丸かつ子さん。大正13年の牛馬共進会の賞状が残されているほど、先祖代々、牛を上手に育てる

家庭に生まれ育ちました。大の牛好きという茂さんと結婚し、夫婦二人三脚で牛を飼ってきましたが、近年、茂さんが体調を崩し、

かつ子さんが中心となって飼育しています。これまで、町や郡、県の共進会でたびたび上位入賞し、孫のおもちゃになるほどトロフィーがありますが、全国大会には出場したことがありませんでした。

「全国大会は和牛農家にとって、あこがれの舞台。一度は出場してみたいと思っていたので、前回初めて選ばれた時は本当にうれしかったです」と話します。

前回大会はいきなり3頭も代表に選ばれました。全国大会の会場はドーム型。牛が通るところは全て



「年齢的にも前回は最後だと思っていたので、今回選ばれて驚いている。今度こそ、最後の大会になると思うので、悔いのないようがんばりたい」

他の出品者に迷惑がかからないようにと、毎日千回のブラッシングに汗を流しています。



広島県 最年少の出品者

Interview



大迫晴由さん (峰田町)

大迫晴由さんは今回、広島県の出品者で最年少の27歳。小学生の頃、牛の世話を始めて以来、学校から帰ると牛舎へ向かうのが日課になりました。21歳で結婚し、三次市三良坂町に移り住みましたが、夕方仕事が終わると、実家へ通って牛の世話を続けています。

毎朝4時起きで実家へ通い、牛の運動、手入れを行ってきました。

「候補牛となったが、一時は評価が下がり選ばれないかと思っていた。2歳の息子がパパの牛は全国へ行けるよと励ましてくれ、本当に全国大会が決まった時は、めちゃくちゃうれしかった。これもずっと指導いただいた牧博美さんのおかげです」と振り返ります。

「やるからには、いずれ日本一の和牛を育ててみたい」と話す晴由さん。和牛飼育にかける情熱は誰よりも熱いものを持っています。

「実家には、父や母、兄がいますが、牛が好きだからやめられない」と話します。全国大会の存在を知ってから、どうしてもそれに出場したいと思いはじめた晴由さん。夕方だけではなく、



①第1区 (若雄)
②神白茂
③羽賀 徹 (東城)



①第3区 (若雌の2)
②どいばら8の6
③大迫晴由 (峰田)



①第4区 (系統雌牛群)
②しげばば1
③重藤豊輝 (東城)



①第4区 (系統雌牛群)
②38ばば8
③西村 豊 (口和)



①第4区 (系統雌牛群)
②ばばなかまる
③中丸かつ子 (比和)



①第4区 (系統雌牛群)
②きねん22
③名越禎一 (比和)



①第5区 (繁殖雌牛群)
②ながおか6の1
③清水 充 (東城)



広島県の代表牛26頭のうち、16頭が庄原市の出品者。全国大会へ出場する庄原市の優秀牛を紹介します。

①出品区 ②名号 ③出品者 (敬称略)



過去5回連続出場
小笠原良致さん

口和町の和牛農家。福島・島根大会で連続日本一に輝いたほか、5回連続出場の実績の持ち主。今回も出品者から多くの相談を受ける。「会場には、各県から大きなのほりを持って応援団が詰めかけます。出品者は会場の雰囲気にもまれ不安になりますが、応援に来ていただく本当に心強く励みになります。今回は久しぶりに中国地方で開催されます。多くの人に応援に行っていたらと思います」

経験者が語る
全国大会

苦労はあるが かけがえのない財産 心を一つにして 上位入賞を

私たちは良き指導者、関係者をはじめ多くの人たちに支えられ、福島大会から前回の岐阜大会まで5回連続で出場し、全部で成牛7頭、子牛2頭を出品しました。

和牛農家にとって、全国和牛能力共進会に出場するということは名誉なことではあります。反面、大会までは十分な運動に栄養管理、そしてブラッシングなどの手入れと大変な日々を送ることになります。特に群出品は4頭セットでの評価となりますから、一人でも手を抜くと他の出品者に

迷惑がかかるため、精神的にかんがいのストレスやプレッシャーになります。

牛の健康状態を守るのは大変困難なことです。牛は神経質で、環境が変わるとかぜをひきやすくなります。また、餌を食べなくなり体も変化しますので、大会会場へは普段食べなれている餌を持って行き、暑くないか、寒くないか、最後まで牛の体調管理に気を使います。

審査は待ち時間を含めて1〜2時間かかります。その間静止しなければいけません。500kg近い体重を支えるには日頃から運動をさせ、足腰を鍛えなければいけません。また、しっかり運動させることにより肩の内側に肉が付き骨格がよくなります。朝・晩はブラッシングをしますが、これをする事によって皮膚をやわらかくし、無駄な脂肪をとることが出来ます。そして、大切なのが調教です。独特のかけ声と綱だけで牛に指示しなければいけません。調教一つで、牛

の見栄えがまったく違ってきます。普段ほとんどの農家がそのような訓練をしていませんから、2か月ぐらいで教え込むことは大変な作業です。

そのような苦労がありますが、全国和牛能力共進会には大きなメリットがあります。牛は言葉が話せませんが、全国の多くの人々たちを紹介し、いろんな経験と、人と人とのつながりができました。今ではそれが、かけがえのない財産・宝物だと思ひ、お世話になった全体的に感謝しています。第9回出品者の皆さんも、このチャンスを大事にしてほしいと思います。

全国和牛能力共進会は、各道府県対抗の戦いです。会場では、自分の出品牛のことだけでなく、お互いに餌を分け与えるなど、広島県全体が良くなるよう助け合うことが大切です。健康に気をつけ、出品者として関係者が心を一つにして、上位入賞を目指してください。

今回、出品者の中で唯一、共同飼育を行っている齊木牧場。コンバインなど農業機械の共同利用をきっかけに、和牛飼育も共同でやるうと、平成3年から近隣の農家4戸で始めました。

その4戸が共同で持っている土地を放牧地にして、牛舎は補助金を活用し、新しく整備しました。当時、各戸が所有していた8頭の種牛も現在では15頭に増やしています。

朝は1か月交代の当番制で、夕方は各世帯の主婦4人が集まって世話をします。作業時間は、朝が30分、夕

方が1時間半〜2時間。その他、各農家は草を刈って持ち寄ります。共同飼育の利益は、年間約240万円。利益は平等に分配し、主婦のちようどよいパート収入になっています。

「誰がえさをどれだけ持ち込んだとか、細かいことを言わず、利益を平等に分配してきたことが長続きの要因。共同作業というものは、お互いに助け合っているのが基本。みんながその気持ちで大事にしてきたことがよかった」と振り返るのは代表の前田正人さん。

共同飼育、しかも健全経営で、各地域から視察が相次いでいます。

冠婚葬祭をはじめ行事や予定があるときに、お互いに助け合えるのが一番のメリット。共同飼育していないかと思ったら続けていると言います。また、「14年目になるトマト栽培も、堆肥をしっかりと入れることで、大きな病気がでていない。しかも、トマトが甘いと評判」。

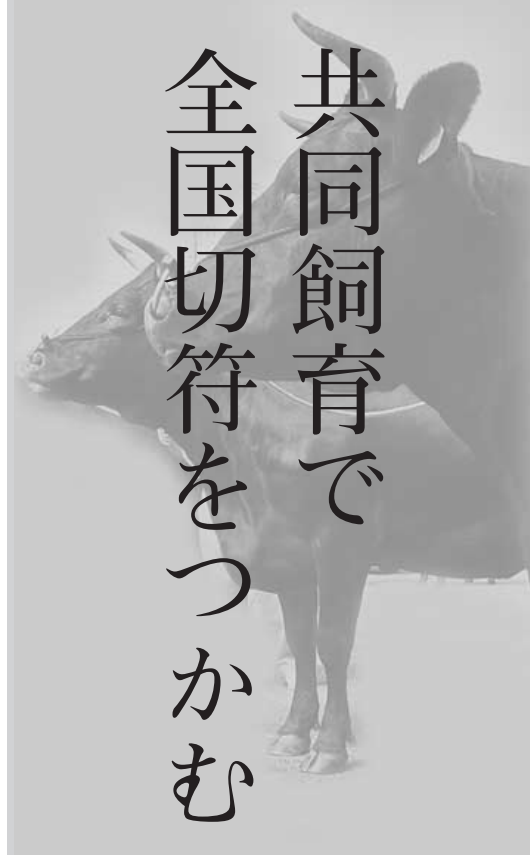
和牛飼育をすることで、農業も



うまくいっています。

「共同飼育でも、全国大会へ出品できる牛を育てられたという事は大きな自信になった。これからも、みんながいい牛を作りたい」。共同飼育のモデルとして、今後さらに注目されます。

共同飼育で 全国切符をつかむ



Interview



さいのき
齊木牧場代表
前田正人さん（高野町）



①第5区（繁殖雌牛群）
②あきもと126
③穂本道人（高野）



①第5区（繁殖雌牛群）
②のむら3
③大上信数（東城）



①第5区（繁殖雌牛群）
②はなふく12
③正長章市（尾引）



①第7区（総合評価群）種牛群
②しげたつ9の6
③段島 覚（戸郷）



①第7区（総合評価群）種牛群
②40せのばば
③庄原農協育成C



①第7区（総合評価群）種牛群
②まきもと12の2
③槇原数彦（口和）



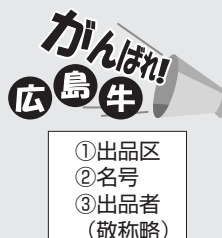
①第7区（総合評価群）種牛群
②95やまかわ9
③齊木牧場（高野）



①第8区（若雄後代検定牛群）
②安芸森
③田中高志（東城）



①第8区（若雄後代検定牛群）
②沖富42
③田中高志（東城）



①出品区
②名号
③出品者
（敬称略）

伝統ある広島牛の良さを 全国へ発信したい

和牛振興の大きな 弾みに

前回の岐阜大会は、過去の輝かしい広島県の成績と比べると、よい成績とは言えませんでしたが、その悔しさ、反省から、今回は早く全国大会へ向け取り組みました。5年に1回の大会のため、通常であれば、県の対策協議会は前回大会が終わって2〜3年経って



JA庄原 畜産課長
瀬尾範芳さん

立ち上げますが、今回は前回大会が終わってすぐに立ち上げました。これは、和牛農家・農業団体・行政の3者が、どうしても優秀な成績を収めたいという強い意気込みでもあります。県内の和牛農家数・飼育頭数が年々減少している中、どこかで活性化のきっかけを思っています。今回、優秀な成績を収めることができれば、広島県と庄原市の和牛振興に大きな弾みがつくと思っています。

テーマは「原点回帰」

これまでは、系統ではなく個体で優れた牛を選抜する傾向にありました。しかし、他県の種雄牛を使って全国大会へ行っても、結局は他県の宣伝になります。

やはり広島県で育ったものを全国へアピールしないと意味がないと原点に戻りました。まさに、原点回帰です。全国に広島牛をアピールするため、今回の出品牛は県内飼育・県内種雄牛にこだわりました。現在、広島県での主要な種雄牛「勝白」「原平茂」が、全国でどの程度対抗でき、評価されるかが見ものです。

今回から新しい取り組みとして、第4区「系統雌牛群」が設けられました。この区は地域に代々大切に継承されてきた特色ある系統の掘り起こしと再構築を目指しています。全国的にもと種雄牛ベースの系統で選抜したものが多くありますが、広島県は雌系統の「ばば」系を選抜しました。昔から広島県は和牛の産地という

ことで、優秀な雌子牛が全国に買われていきましたが、その代表が「ばば」系です。この系統は古くから口和地域で多く飼育され、濃厚で子出しも良く、体型も立派で、農家にとって経済性が高いと評価されています。「ばば」系の特徴である体の長さ、体上線の強さ、品位などを全国にアピールしたいと思っています。

肉質を競う肥育についても、県内種雄牛で選抜することを決め、和牛農家にお願いで「原平茂」「安芸茂」「勝白」の種をつけてもらいました。肥育は、消費者にとって大変興味があるので、良い成績が残れば、子牛価格にもいい影響がでてくるものと思います。

生き残りをかけた戦い

今回どうしても勝たないと、産地競争に勝てないと、認識で、早くから書類選抜し、現地確認して代表牛を選びました。全国大会に向けて早く準備してきたので、かなりの成績を期待

しています。評価は優等賞、1等賞、2等賞に分けられますが、全ての出品区で優等賞を狙っています。今回は広島牛というイメージを全面に出しているのですが、それが全国でどのように評価されるのかが大きなポイントになります。それだけに、私たちが必死です。伝統ある広島牛の良さを全国へ発信し、この地域の肉用牛振興のため、生き残りをかけた戦いに全力で取り組みます。



共同飼育で和牛振興

全国和牛能力共進会に向け、庄原市、JA庄原、関係団体による庄原市対策協議会を設置し、経費負担、人的支援など全面的な支援体制を組み、関係者一丸となつて全国大会の上位入賞を目指しています。

庄原市は、古くから広島県を代表する和牛飼養地域です。そのため、合併以前から旧市町で和牛振興に対する支援が充実していました。合併後は、その支援策を統合するとともに、JA庄原や庄原和牛改良組合の意見を取り入れながら、より効果的な支援策に改善しています。これまでの取り組みと和牛農家の飼養意欲が、今回、庄原市から多くの広島県代表牛が選出された一つの要因であると思っています。

庄原市では、昔から田畑の畔草などによって牛を飼

を田畑に入れておいしい農産物を栽培してきました。

この耕畜連携が庄原市農業の基本であり、本市の農業振興を図る上で、和牛は欠かせない存在であると考えています。また、和牛の産地ブランドを確立するためには、一定の、しかも安定した子牛生産頭数の確保が必要で、現在、本市が和牛振興の柱に掲げているのは、10年後を目標とする飼養頭数の大幅な増頭です。

そのためには、牛を飼いやすい環境、そして使いやすい支援制度が必要と考えています。その支援策の一つとして、和牛共同飼育推進事業があります。高野地域の齊木牧場は、この和牛共同飼育のモデルとなつていますが、飼養労力の分散と低減のなかで全国大会出品牛が育ちました。昨年、東城地域でも市の補助事業を活用し共同飼育が始まっ



庄原市農林振興課
振興係長
井上一仁さん

ています。

現在、地域農業を再編する方策として、集落法人などの集落営農組織の育成が進んでいます。市では、この集落営農組織で和牛を共同飼育し、耕作放棄地に放牧することによって営農組織の経営安定と農地の保全を図る取り組みを推進しています。

また、和牛の増頭を推進することにより、地域内資源循環体系を確立し、庄原市の農業振興を図りたいと考えています。共同飼育や補助金制度に関して、お気軽に農林振興課振興係または活性化係へご相談ください。
(☎0824731132)

第9回 和牛の博覧会を見に行こう!

5年に一度の和牛の祭典「第9回全国和牛能力共進会」が鳥取県で開催されます。会場では全国の和牛が味わえる露店など、消費者向けのイベントも盛りだくさん。この機会に会場に足を運んで和牛の魅力に触れてみよう。

とき 10月11日(木)~14日(日)
10月11日~12日は第1回審査で、個体審査・比較審査が行われ、13日~14日の第2回審査で等級が決定します。

メイン会場 崎津住宅団地(米子市)
サブ会場 竹内工業団地(境港市)
肉牛の部会場 (株)鳥取食肉センター(大山町)
ホームページ <http://www.torizenkyo.com>



全国和牛能力共進会